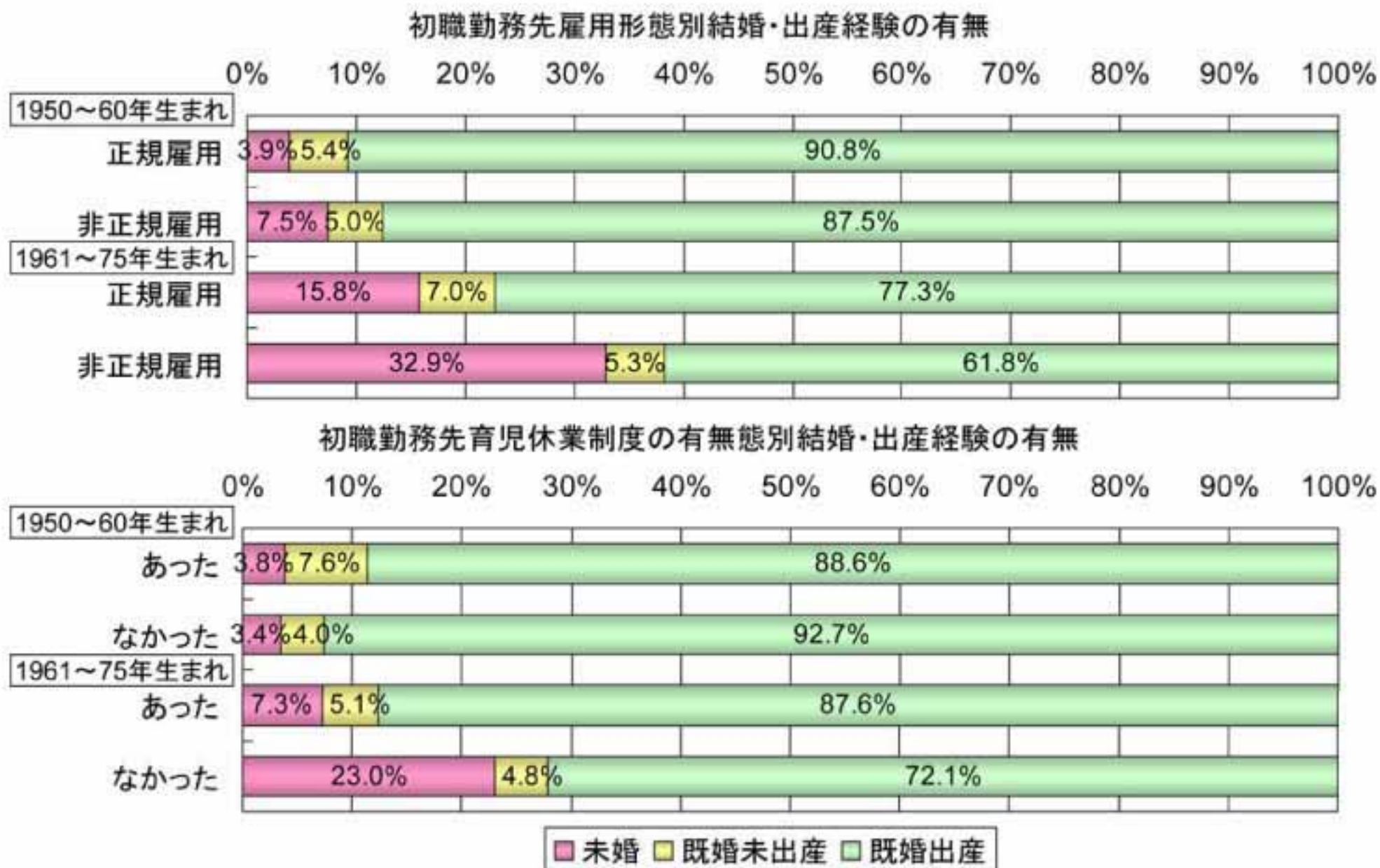


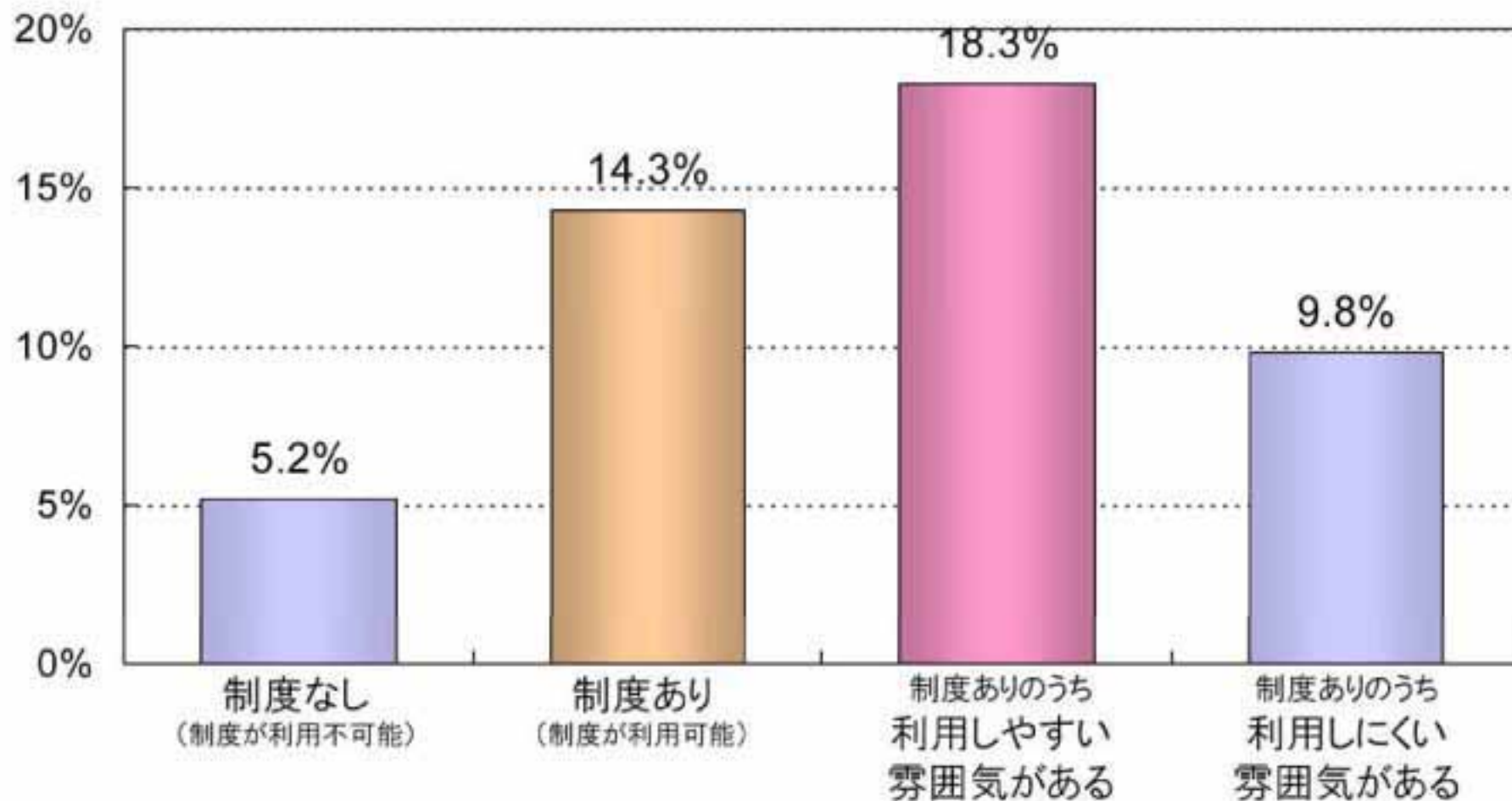
図4 初職勤務先の雇用形態、育児休業制度の有無と結婚・出産



資料：労働政策研究・研修機構「仕事と生活の両立」(2006年)

図5 育児休業と出産確率

第1回調査(平成14年11月実施)から第2回調査(平成15年11月実施)の間に子どもが生まれておらず、第2回調査時点で妻が会社等に勤めていた夫婦のうち、この1年間で子どもが生まれた割合



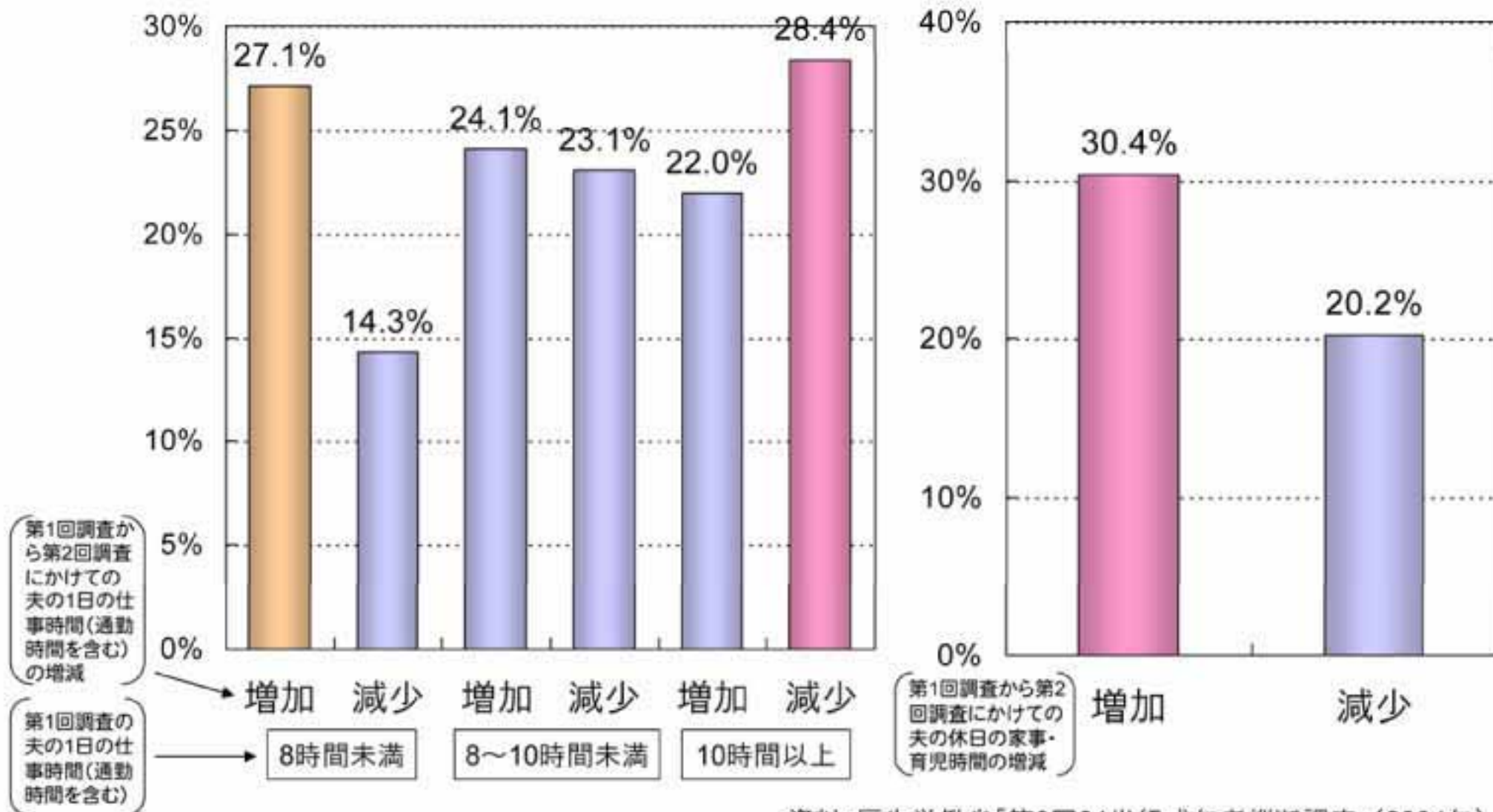
資料:厚生労働省「第3回21世紀成年者縦断調査」(2004年)

図6 男性の労働時間、家事・育児時間の増減と出産確率

夫婦ともに子どもをほしいと考えており、第1回調査(平成14年11月実施)から第2回調査(平成15年11月実施)の間に子どもが生まれていない夫婦のうち、この1年間で子どもの生まれた割合

仕事時間の増減と出生との関係

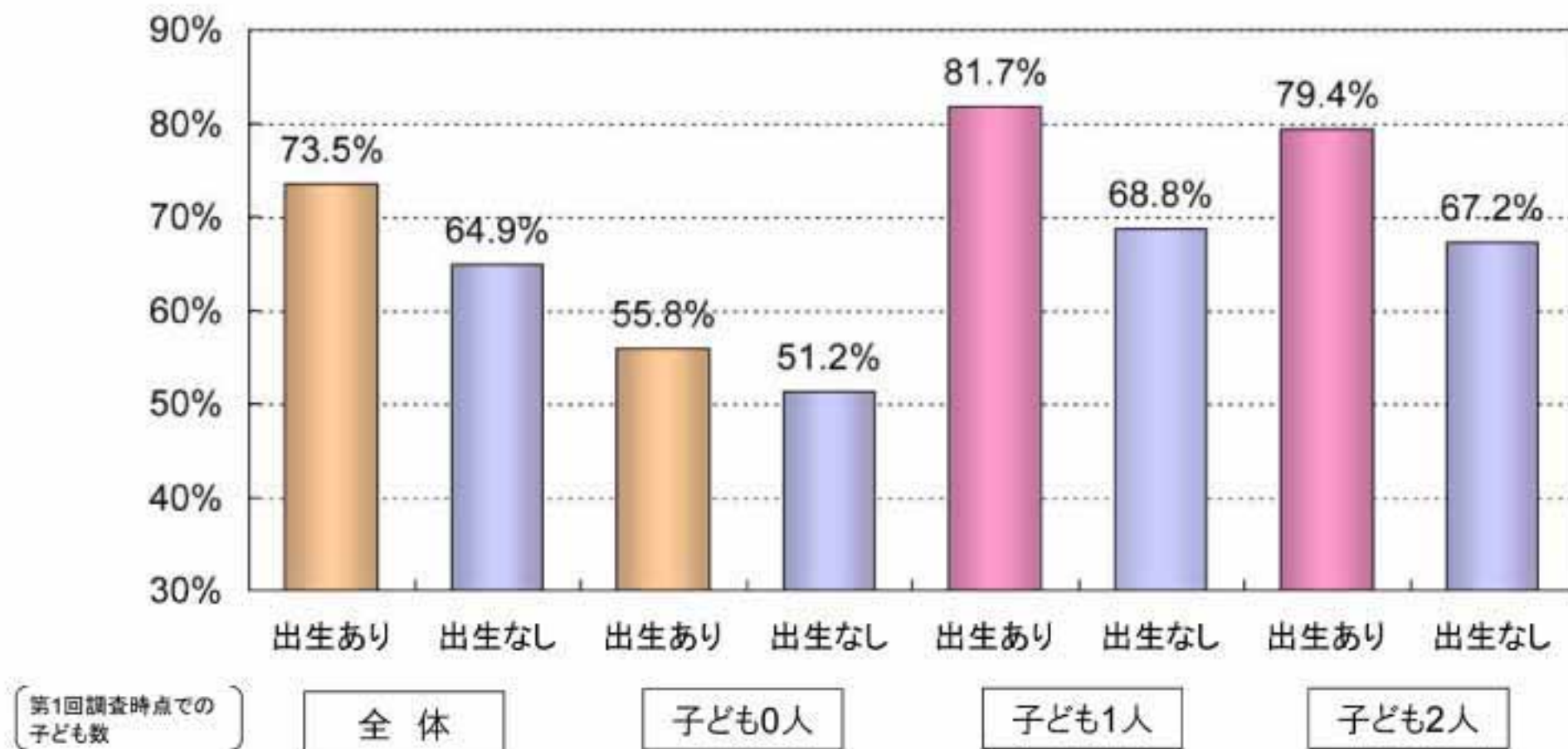
家事・育児時間の増減と出生



資料:厚生労働省「第3回21世紀成年者縦断調査」(2004年)

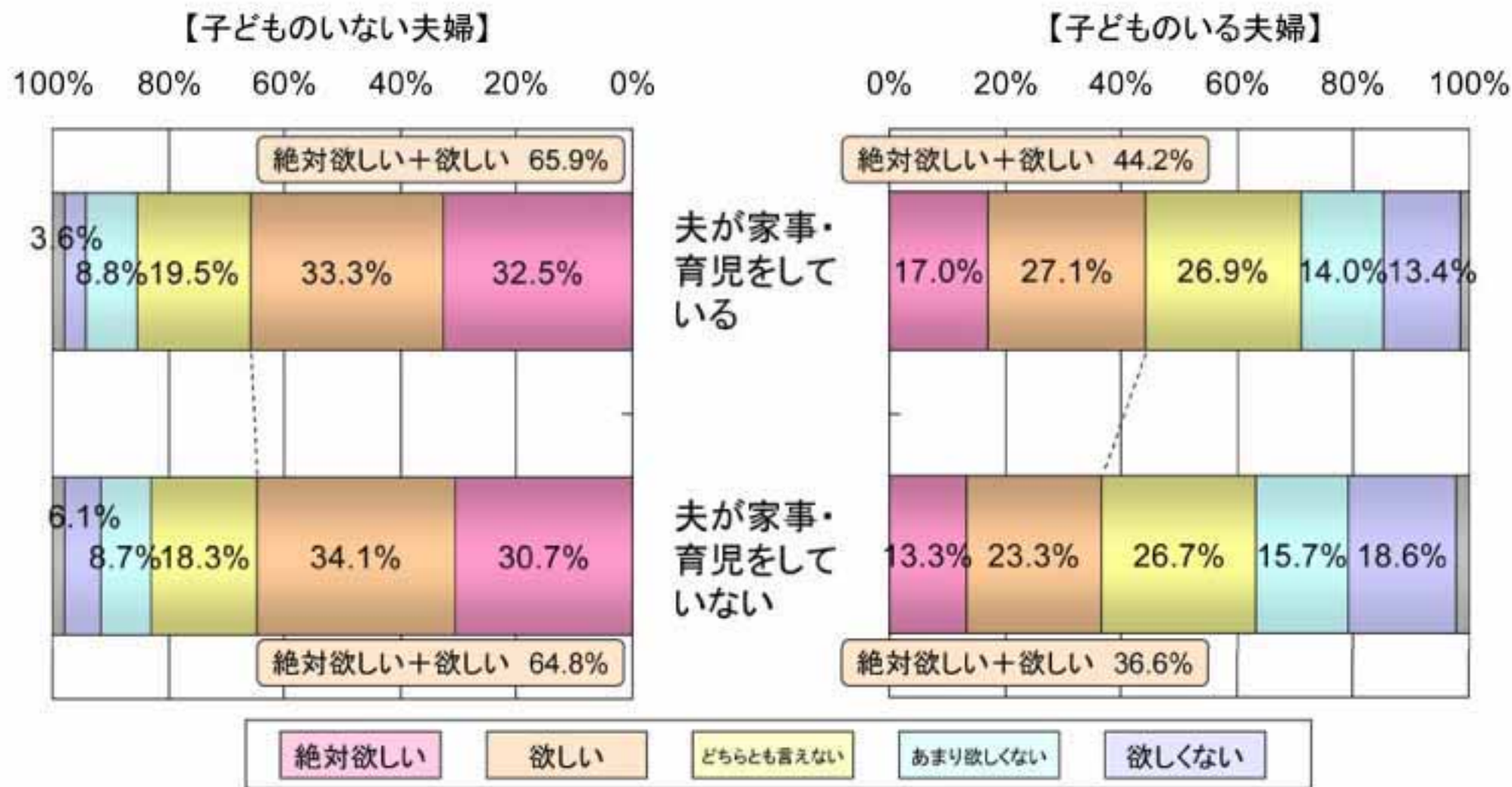
図7 男性の家事・育児分担と出産

第1回調査(平成14年11月実施)から第2回調査(平成15年11月実施)の間の出生の有無別にみた第1回調査時点での妻から見た夫の家事・育児分担有りと回答した割合



資料:厚生労働省「第2回21世紀成年者縦断調査」(2003年)

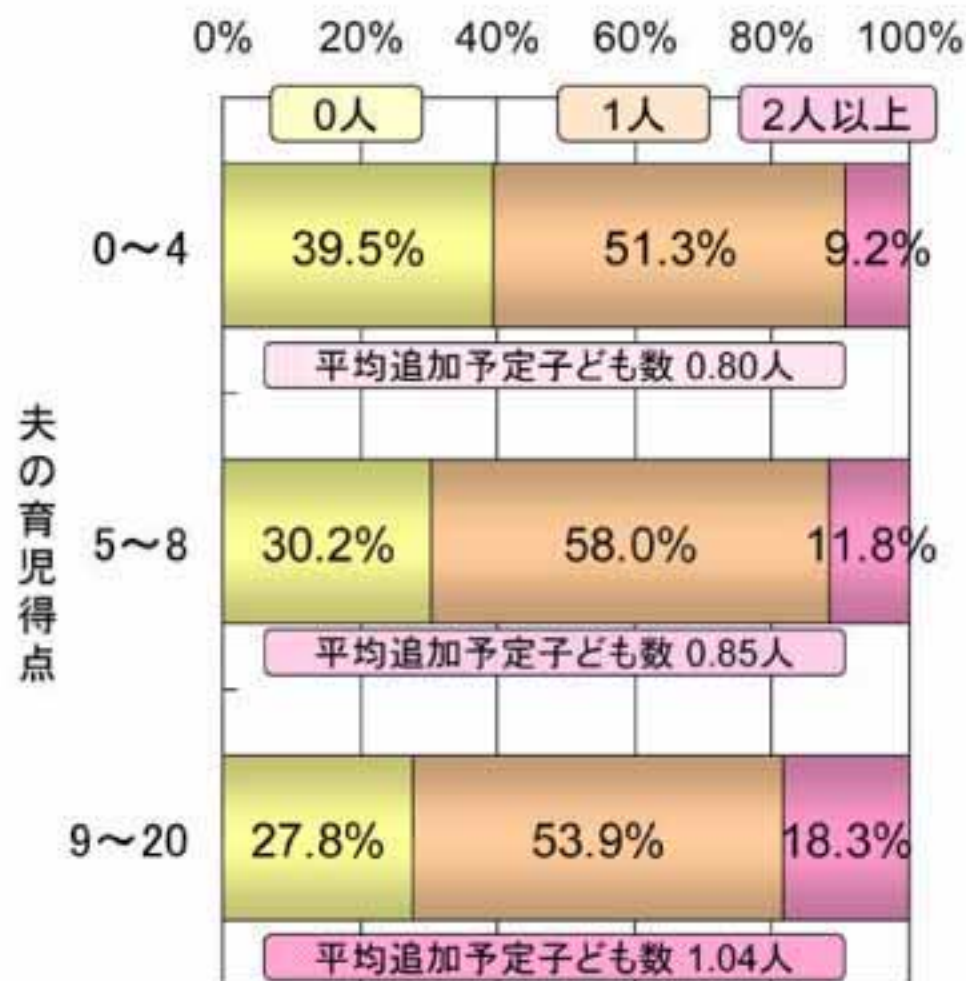
図8 夫の家事・育児分担と妻の出産意欲



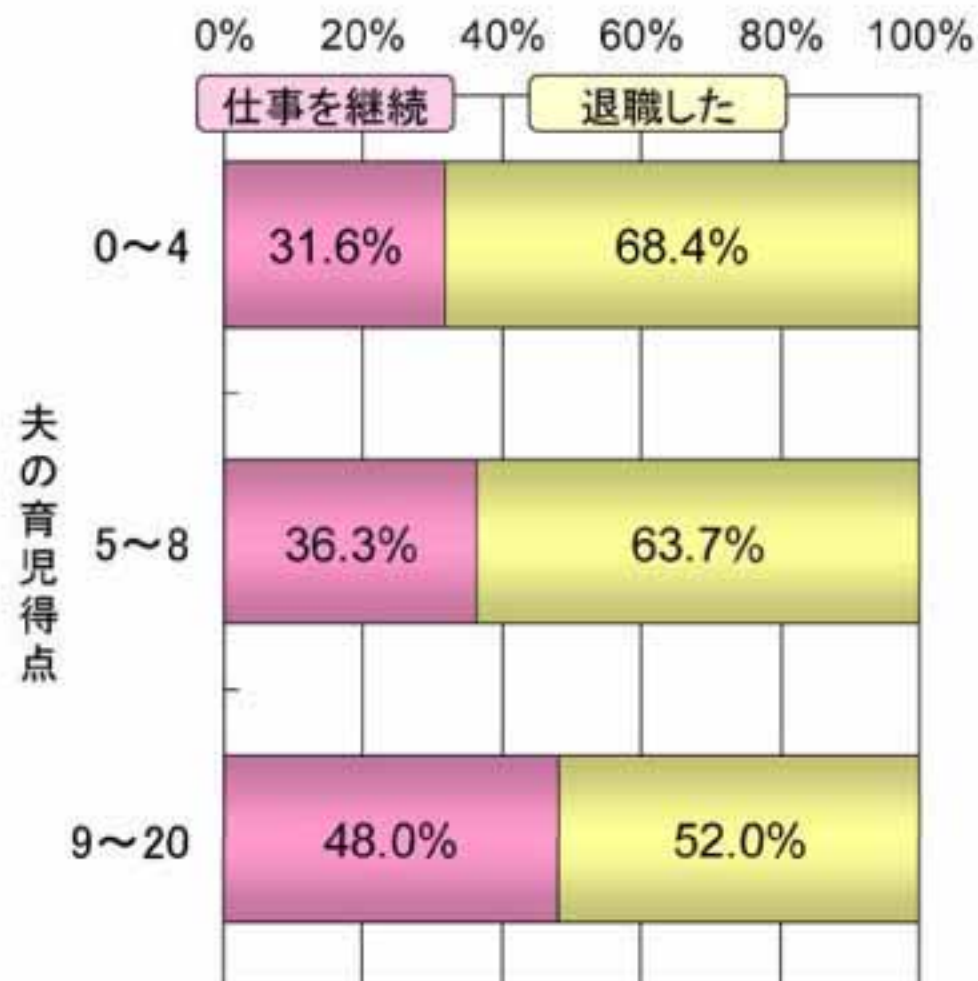
資料：厚生労働省「第1回21世紀成年者縦断調査」(2002年)

図9 夫の家事・育児分担と妻の出産意欲、就労継続

現在子ども一人の夫婦の追加予定子ども数



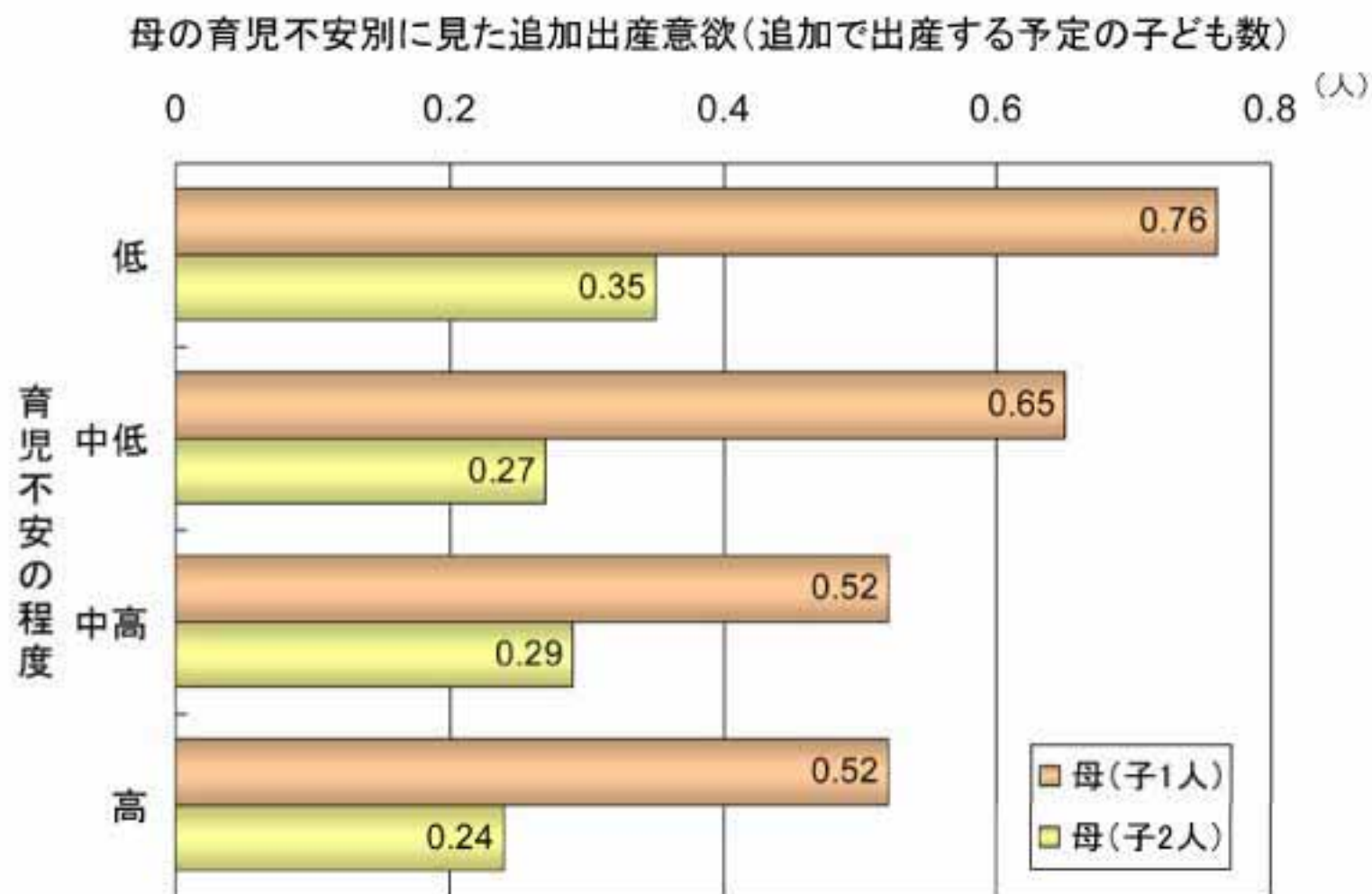
第一子出産時の妻の就業継続率



(注)「夫の育児得点」は、「遊び相手をする」、「風呂に入れる」、「食事をさせる」、「寝かしつける」、「おむつを替える」の領域別に、「月1~2回」(1点)、「週1~2回」(2点)、「週3~4回」(3点)、「毎日・毎回」(4点)、「やらない」(0点)とし、5領域の得点を合算したもの

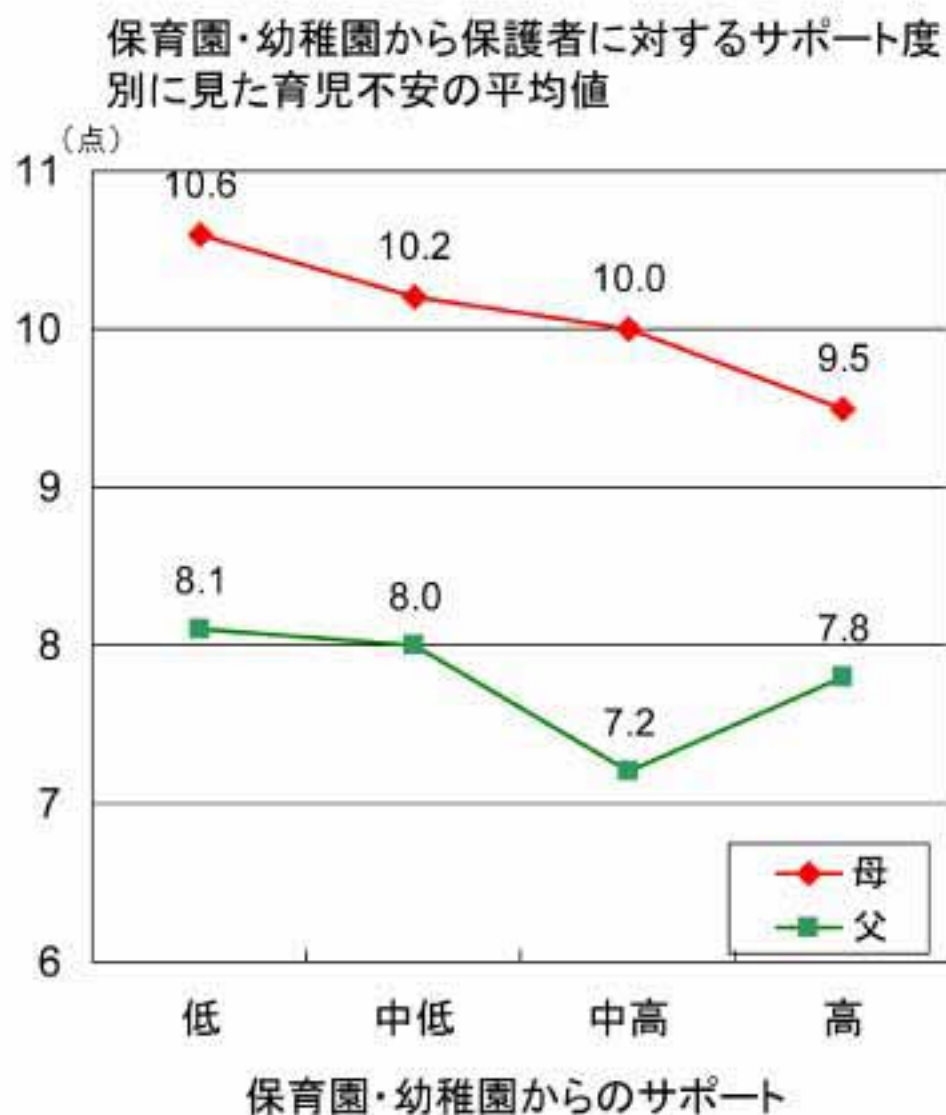
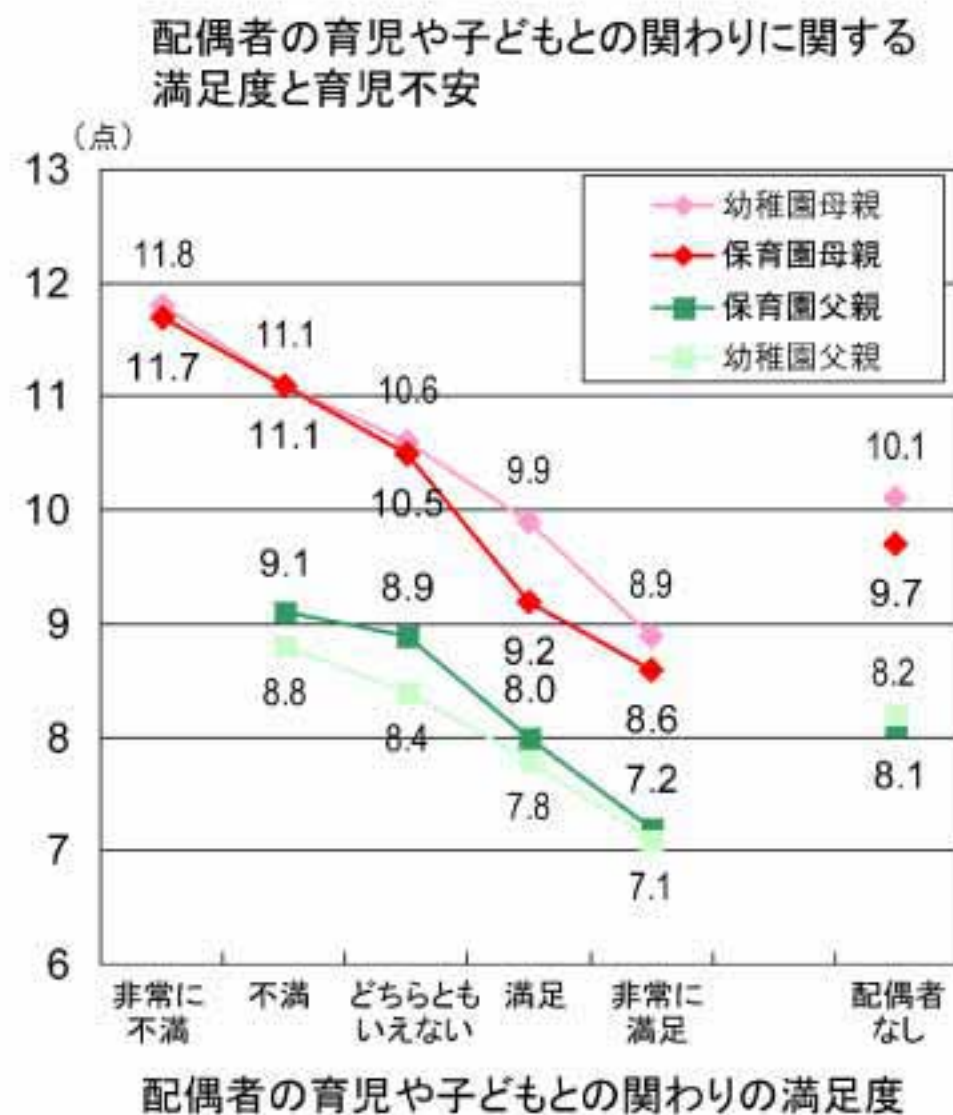
資料：国立社会保障・人口問題研究所「第3回全国家庭動向調査」(2005年)

図10 母の育児不安と出産意欲等



資料: (社)全国私立保育園連盟「乳幼児をかかえる保護者の子育ての現状 不安・悩み、出産意欲に関する調査」(2006年)

図10 母の育児不安と出産意欲等(続き)



資料: (社)全国私立保育園連盟「乳幼児をかかえる保護者の子育ての現状 不安・悩み、出産意欲に関する調査」(2006年)



図11 教育費の負担感と出産意欲

	出生年別				
	1959年以前	1960～64年	1965～69年	1970～74年	1975～79年
教育費を負担とする者の割合	54.4%	56.7%	56.7%	67.3%	76.7%
予定子ども数別					
0人	31.0%	46.4%	54.2%	60.5%	40.0%
1人	27.1%	43.2%	43.2%	54.3%	72.7%
2人	63.0%	57.7%	62.3%	72.0%	77.4%
3人	59.4%	66.3%	54.1%	62.3%	83.3%
4人以上	69.2%	69.2%	—	—	—

(注) 少子化研究会により2003～2005年にかけて6つの自治体で実施された「少子化に関する自治体調査」(20歳から49歳までの既婚女性を対象)において、予定子ども数以上の子どもを持たない理由(複数回答)として「教育費がかかりすぎ、子ども一人一人に十分お金をかけてあげられなくなるから」をあげた者の割合

資料: 新谷由里子「親の教育費負担意識と少子化」『人口問題研究』第61巻3号(2005年)